静岡空港アクセス道路の舗装施工において

(社)静岡県土木施工管理技士会
株式会社　橋　本　組
土木部　次長　　秋　山　充　彦
Mitsuhiko　Akiyama

1・はじめに

静岡空港開港に向けて、アクセス道路の施工に携わりました。
ここの地山は雨に溶けやすい性質があります。
舗装に先立ち、基礎路盤の施工に
雨天の悪影響対策が課題となりました。

工事概要

(1)工事名　：平成18年度静岡空港アクセス道路計画整備工事
（本体内アクセス道路舗装新設その2）
(2)発注者　：静岡県静岡空港建設事務所
(3)元請　　：株式会社 橋本組
(4)工事場所：静岡県牧之原市坂口地内
(5)工期　　：平成18年9月30日～平成19年8月31日

今回の施工写真(当工事は道路掘削から基層工まで)

2・問題点と調査

静岡空港アクセス道路計画整備工事（本体内アクセス道路舗装新設その２）において
当工事区間の地山は、スレーキング率９５％以上の軟岩です。
そこで、軟岩のスレーキング状態（進行度合い）を検証し切土部の掘削施工方法の検討を行いました。
現場におけるスレーキング程度（進行状態）を指標で表す試験はないため、
簡易貫入試験を用い貫入量によりスレーキング状態を表現することとしました。

現地試験状況

3・対策と工夫

検証は現場内に試験ヤードを設けて実施しました。また、過去の知見等よりスレーキング遅延対策として
軟岩の表面をアスファルト乳剤でシールコートする方法が紹介されており、併せて検証することとしました。
試験結果より、軟岩の表面に高浸透性乳剤（PK-P）（1.5ﾘｯﾄﾙ／㎡）によるシールコートが
スレーキング遅延効果に有効であることがわかりました。　ただし、
その効果は、時間10㎜を超えるような、まとまった降雨があると薄れるようであります。
また貫入量は概ね2.0㎝～3.0㎝であることから、軟岩がスレーキングを起こさないように対処するには
現場施工時における掘削作業は3日間程度として、
その後、軟岩表面をしっかりシールコートする作業工程を組む事が望ましいと考え、施工しました。

高浸透性乳剤散布状況

施工ロット割り検討図
右図は下層路盤まで

4・おわりに

計画は立ててみたものの、やはり気象が品質を左右します。
週間予報だけでなく、気圧配置から自分なりに予測してしまうほど神経質になりました。
悪影響が出るほどの降雨もなく、ほぼ施工ロット計画どおり無事完了することが出来ましたが、
それでも心情的には、基層の施工が完了するまで緊張しました。
静岡空港には3年携わりましたが、印象の深い現場であります。